２．近江八幡市におけるオープガバナンスの定義（再確認）

近江八幡市
オープンガバナンス

◎デジタルプラットフォームの考え方

・行政手続きのデジタル化が進み、会議・研修・講演会等への参加もデジタルツールを利用した参加場面が増えてきました。

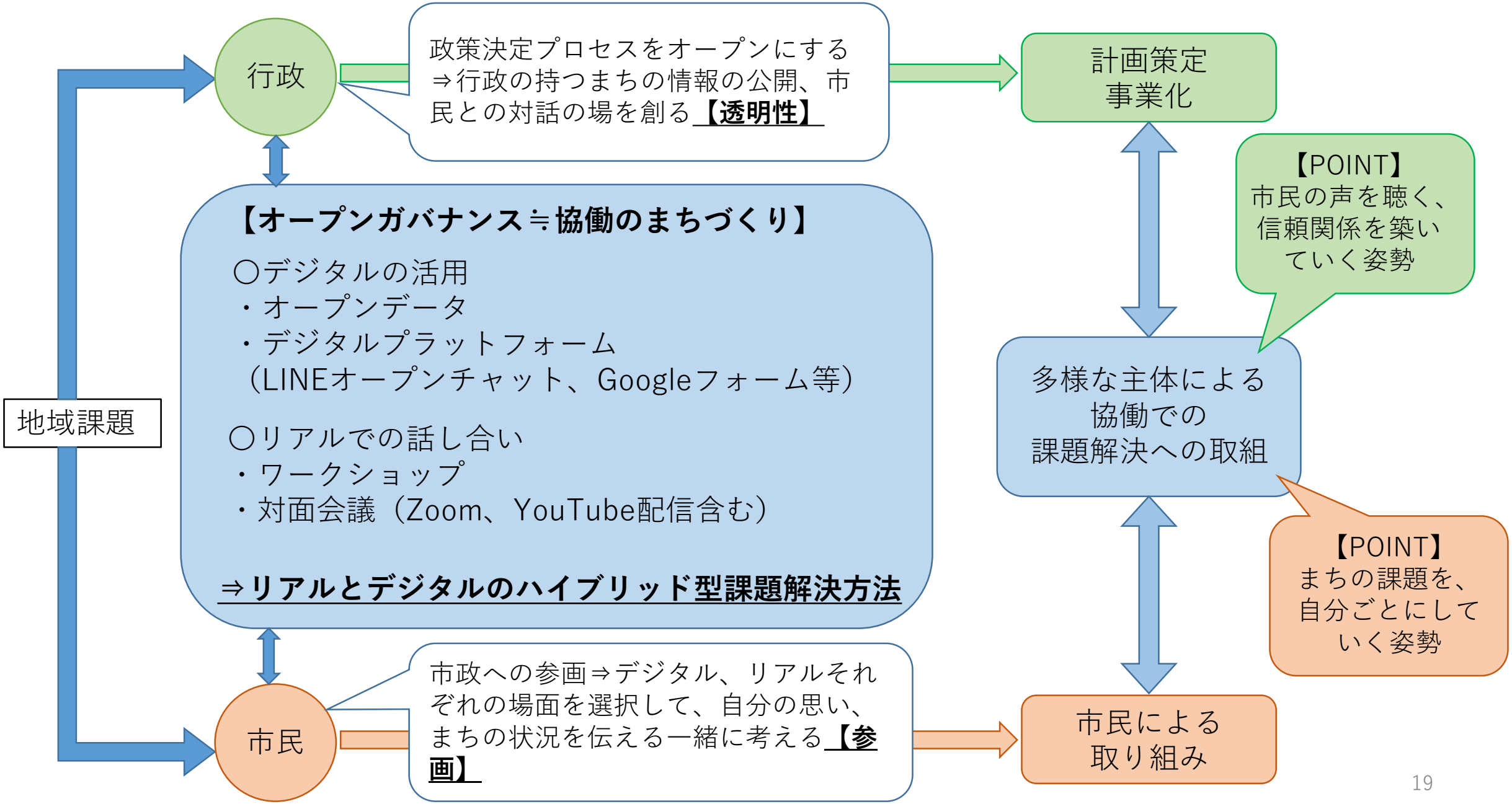
・このような社会情勢であることも踏まえ、オープンガバナンス推進のためのデジタルプラットフォームは、オープンデータの提供による情報発信と、LINEオープンチャット以外のデジタルツールも活用しながら、その取り組みに適したツールで、広く市民の声を聴く機会を創出することが望ましいです。

◎オープンガバナンスを活用した課題解決の考え方

・市協働のまちづくり基本条例の基本原則と、オープンガバナンスの原則である透明性・参加・協働の考え方は同じです。

・オープンガバナンスは、協働のまちづくりを推進するため、地域課題をより具体的に解決する手法の１つ。事業化や政策立案をしていくにあたり、政策決定プロセスをオープンにして、リアルでの市民との対話＋オープンデータやデジタルプラットフォームといったデジタル活用により、地域課題の解決を目指します。

・ただし、必ずしもオープンガバナンスの手法で全施策に取り組む必要はなく、その施策の性質に合うかどうかにより、活用していくものでもあります。

・大切な視点は、市民の声をきちんと聴く信頼関係をつくり、テーマ設定につながるような課題を普段から拾い上げられる、発見できるように、職員自身も変わっていくということです。

＜オープンガバナンスを活用した課題解決の考え方＞